

数字で見る 聖母病院のお産 -2024-

聖母病院産婦人科

2025年2月作成



©SUITA

2024年の聖母病院のお産を
数字で振り返ってみましょう！

2024年のお産

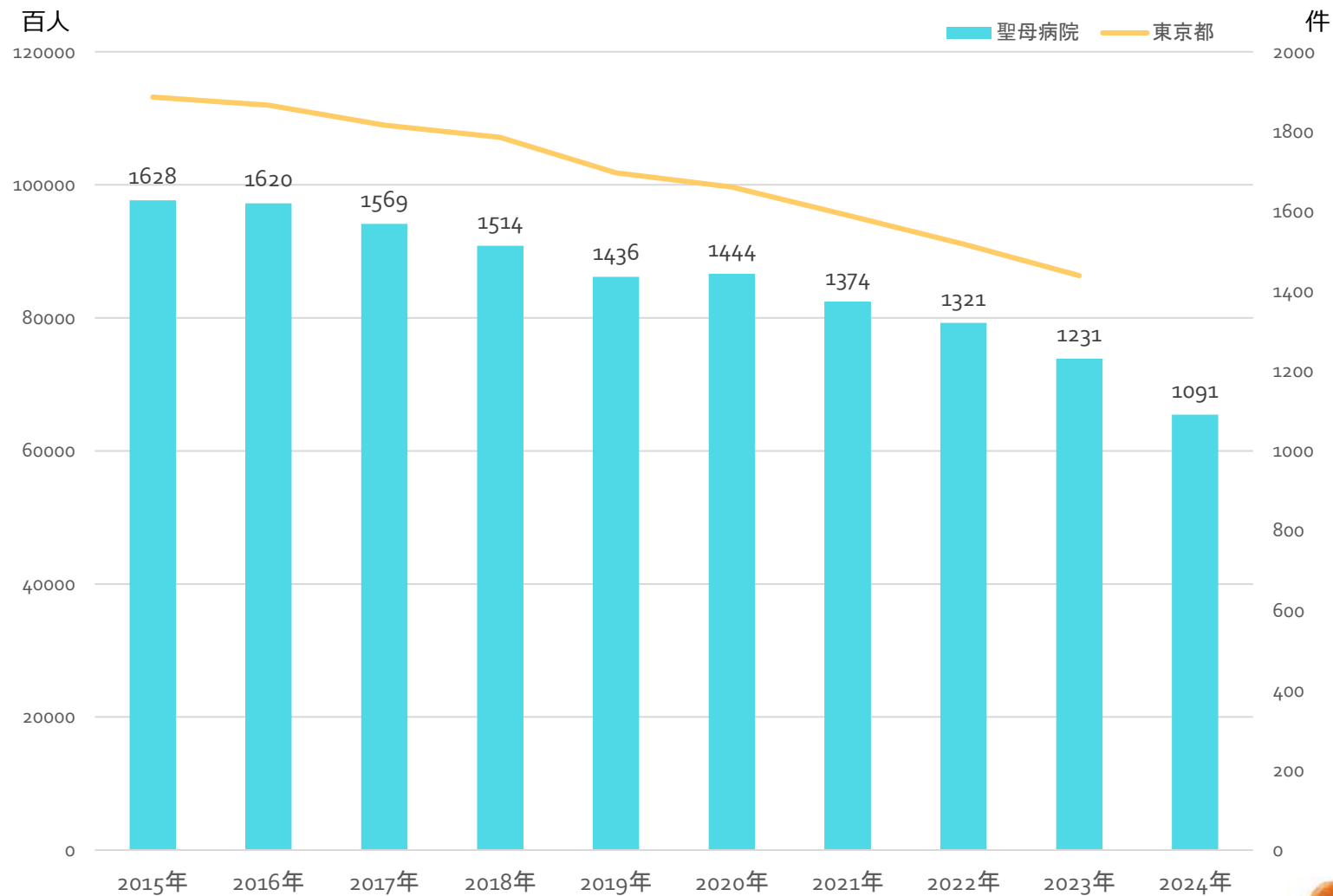
総分娩件数	1091件（うち双胎8件）
初産婦：経産婦	初産婦 615名 56.4(%) 平均年齢 32.6歳 経産婦 476名 43.6(%) 平均年齢 35.0歳
分娩様式	経腔分娩 826件（75.7%） 帝王切開分娩 265件（24.3%） 内訳 予定 153件 緊急 112件
硬膜外麻酔挿入 （無痛）	617件（65.8%） うち経腔分娩554件(89.8%)、緊急帝王切開63件(10.2%)

2024年も1000人以上の新しい命が誕生しました。
初産婦さんが過半数を超えていますが、リピーターの経産婦さんも少なくありません。
当院では10年前から硬膜外麻酔分娩を始めました。2023年4月より365日24時間、無痛分娩に対応しております。



お産の数はどう変わった？

- * 当院は2024年までのデータ
- * 東京都は2023年までのデータ

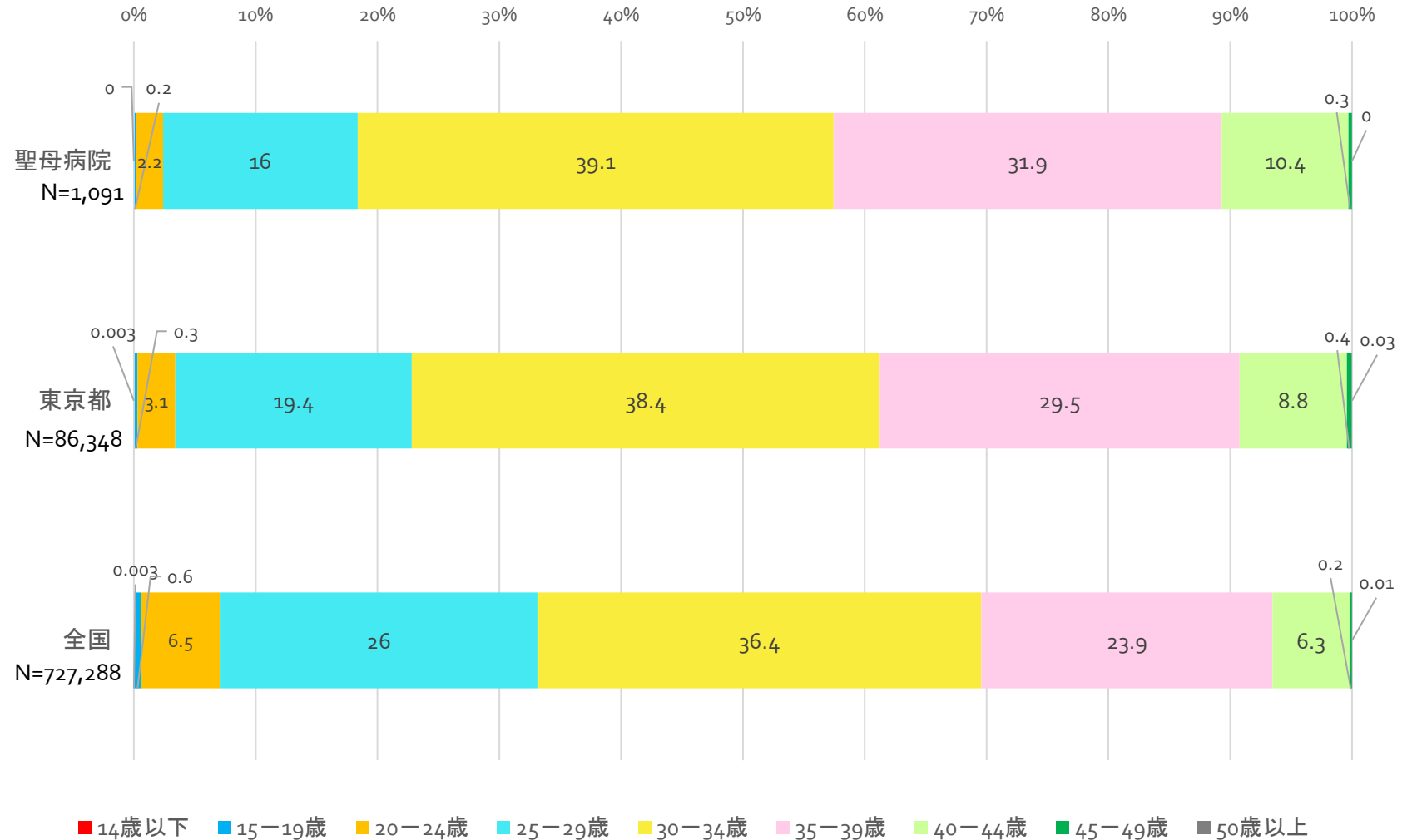


東京都の推移に一致して、当院の分娩件数は少し減少しております。しかしながら、当院は年間分娩件数1,000件以上の都内でも有数の分娩取り扱い施設です。



年齢層は？

* 当院は2024年のデータ
* 全国と東京都は2023年のデータ

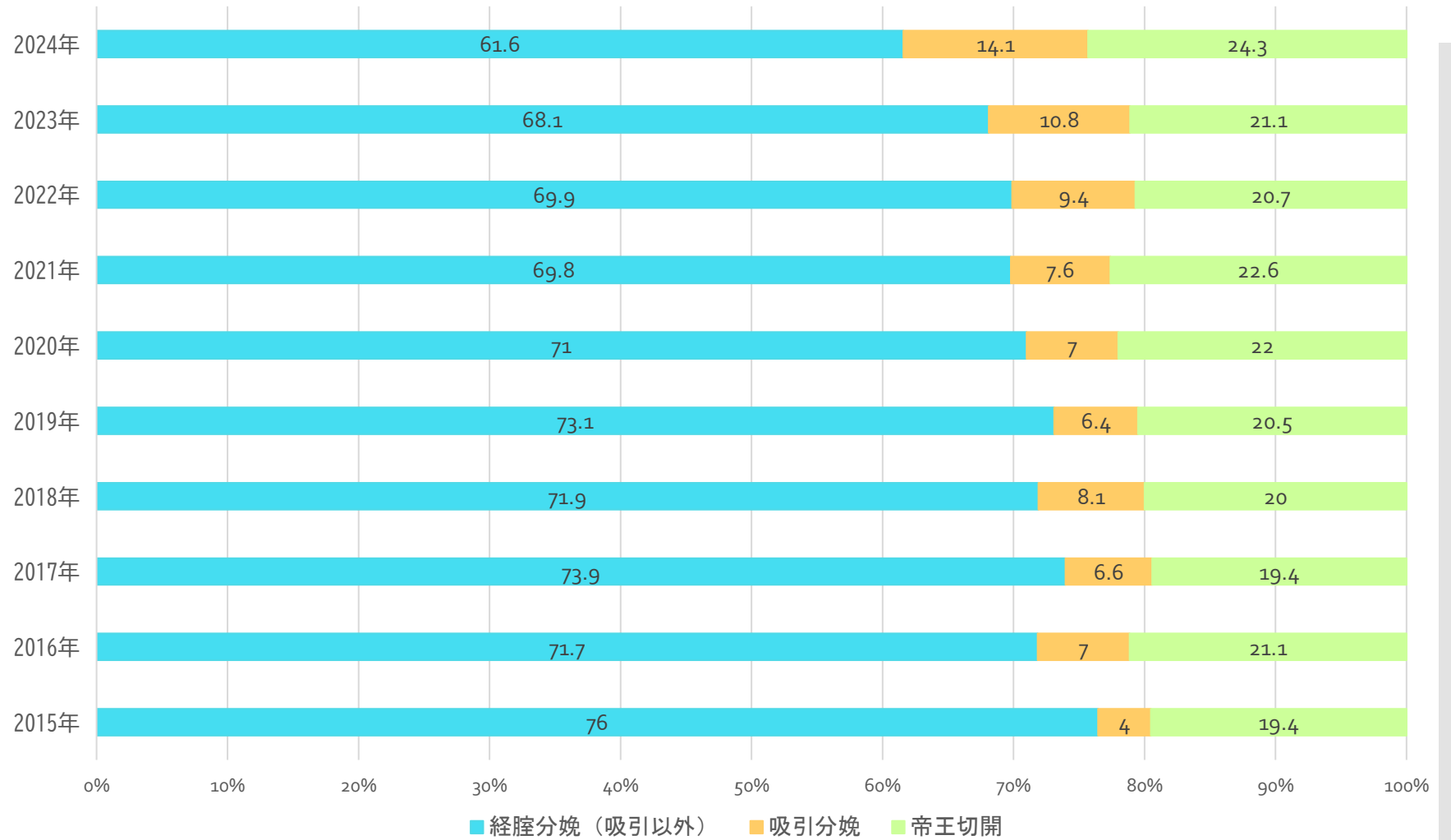


全国や東京都と比較して、当院では30歳代以上の産婦さんの割合が高くなっております。



お産の方法は？

* 2024年までのデータ

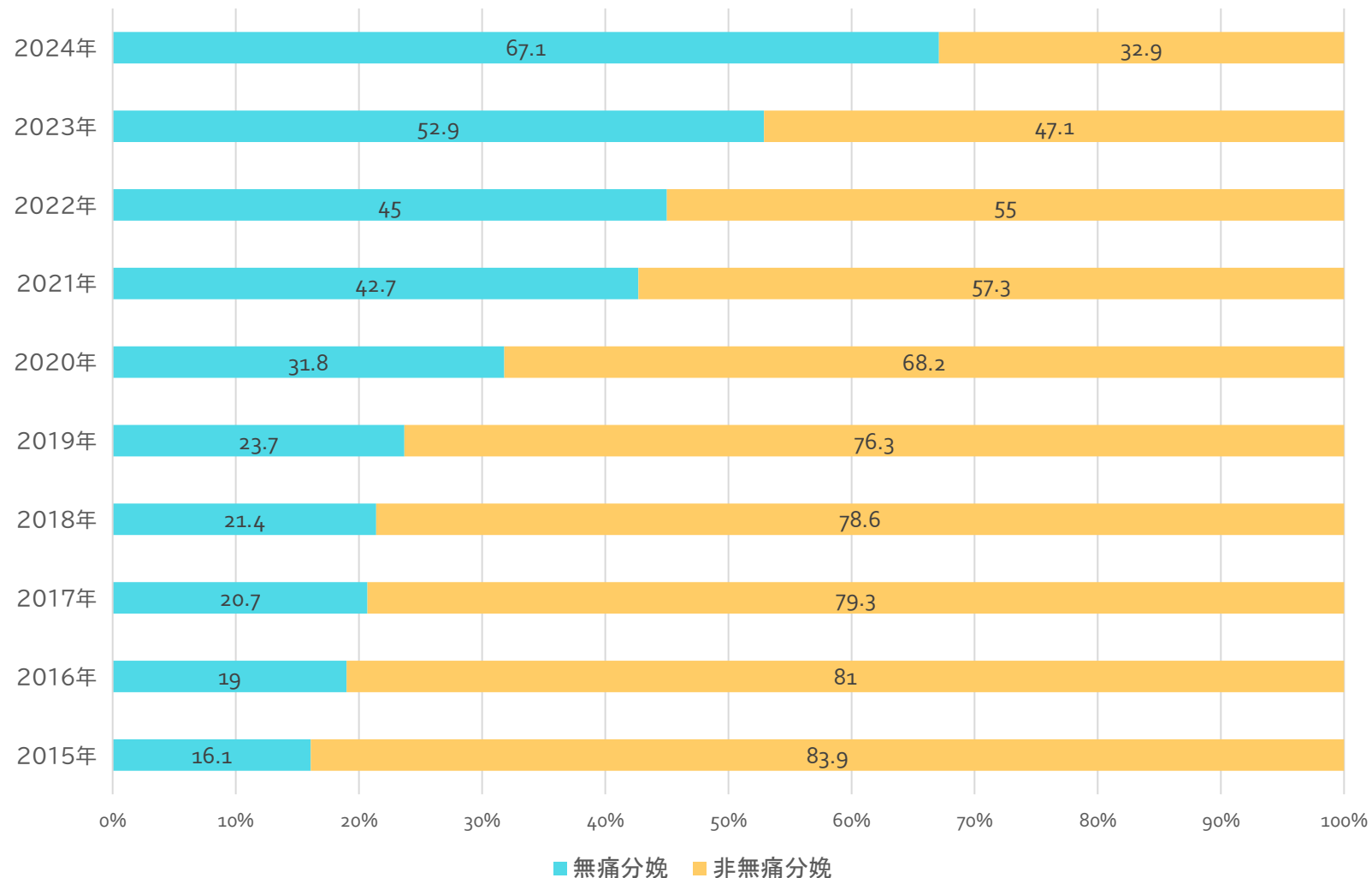


帝王切開で出産される方の割合は20%前後と大きな変化はなく、全国平均と同じくらいです。
なお帝王切開分娩の約半数は、もともと何らかの理由で帝王切開分娩が予定されていた「予定帝王切開分娩」、約半数は分娩経過中に経膣分娩が困難・不可能なため帝王切開術となった「緊急帝王切開分娩」です。



無痛分娩の割合は？ (硬膜外麻酔を使って経膣 分娩をした方)

* 2024年までのデータ



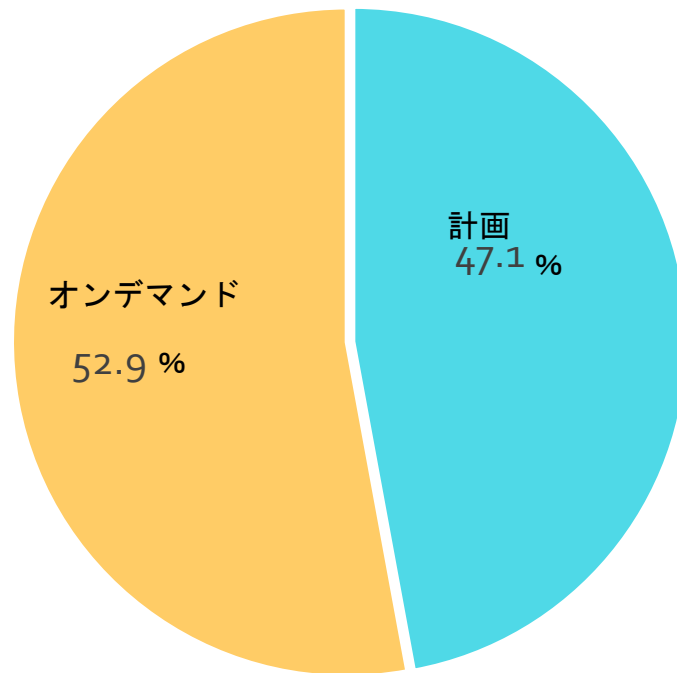
無痛分娩を希望される方は年々増加傾向にあり、半数以上になりました。



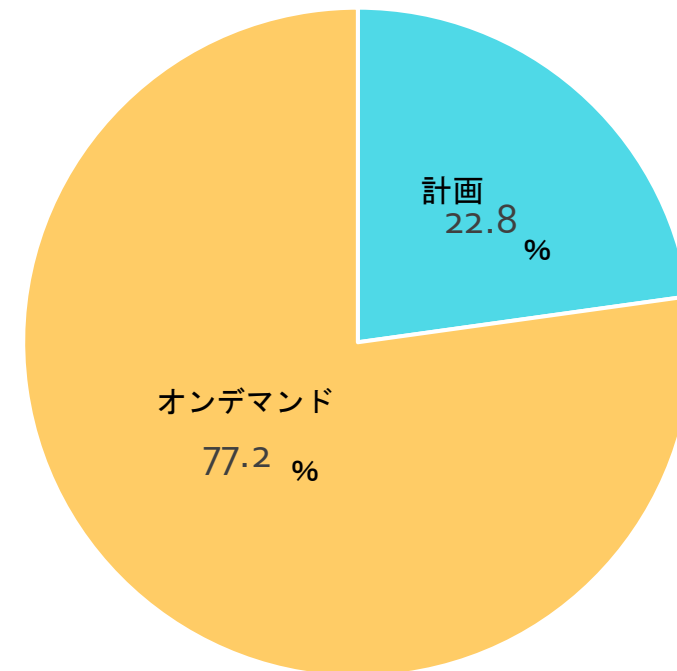
無痛分娩：
「計画」と
「オンデマンド（なりゆき）」
どちらが多い？

* 2024年のデータ
* 「なりゆき無痛」は当院独自の名称です。

初産婦



経産婦



「計画無痛」とは薬剤などによる分娩誘発を行い、硬膜外麻酔を導入する方法です。一方「オンデマンド無痛」は、自然陣痛を待って麻酔を導入する方法で、陣痛促進剤などの医療介入を最小限にする利点があります。2023年4月より無痛分娩が24時間可能となったこともあり、「オンデマンド無痛」が増えています。



無痛分娩の特徴は？

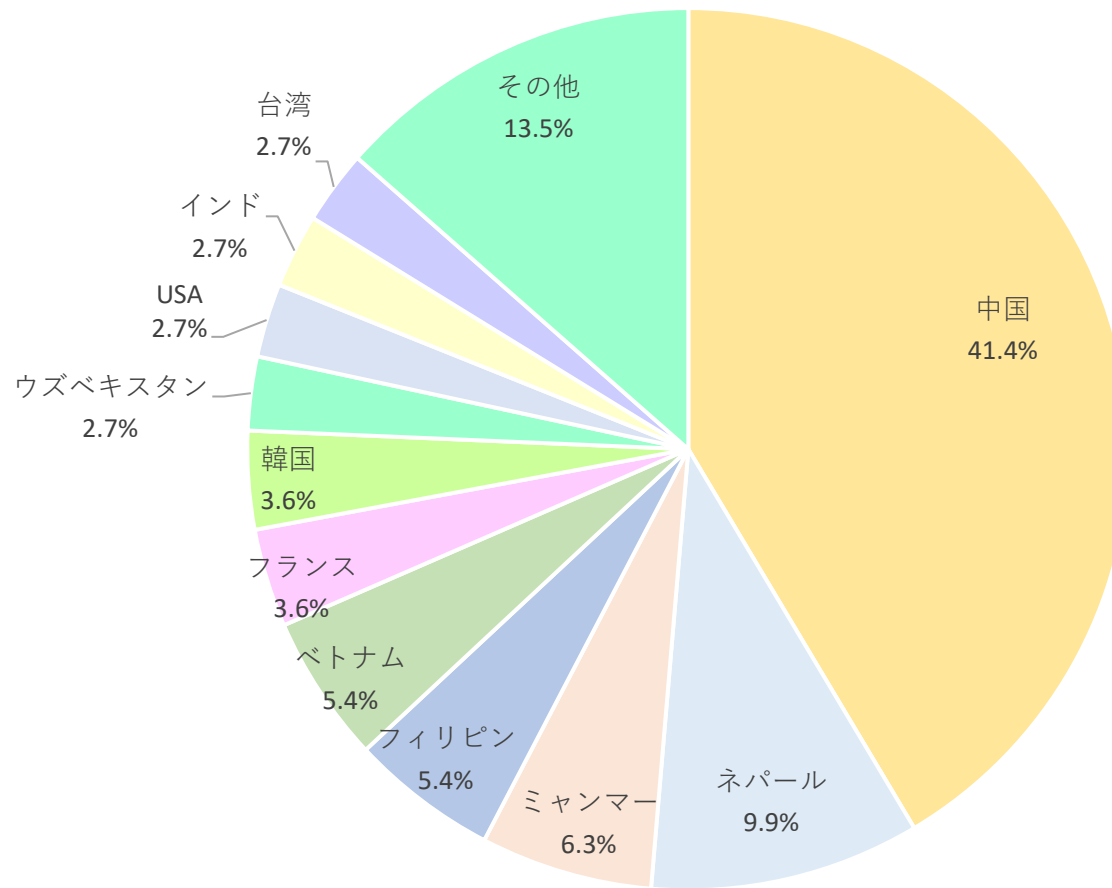
* 2024年のデータ

	初産婦			経産婦		
	硬膜外麻酔あり	硬膜外麻酔なし	p value	硬膜外麻酔あり	硬膜外麻酔なし	p value
	n=394	n=165		n=223	n=157	
経膈分娩	337人	121人		217人	151人	
分娩第Ⅰ期	13時間32分	10時間34分	p<0.001	5時間33分	4時間17分	p<0.001
分娩第Ⅱ期	2時間9分	1時間5分	p<0.001	45分	16分	p<0.001
子宮収縮剤使用	63.6%	37.2%	p<0.001	51.2%	23%	p<0.001
吸引分娩	36.40%	13.20%	p<0.001	5.1%	2.6%	p=0.200
会陰切開	73.10%	50.40%	p<0.001	15.2%	9.2%	p=0.089
出血量	533.6g	474.3g	p=0.055	406g	374.6g	p=0.214
輸血	2人	1人		1人	0人	
双胎	1組	0組		0組	1組	
緊急帝王切開分娩	14%	26.7% 硬膜外麻酔をする前に帝王切開になった者含む	p<0.001	2.7%	3.8%	p=0.54

無痛分娩では、①分娩所要時間が長い、②子宮収縮薬投与・吸引分娩などの医療処置の割合が高いなどの傾向があります。

外国籍妊婦さんの出身は？

* 2024年のデータ



外国籍の妊婦さん111名のうち、中国籍の妊婦さんが約1/3を占めています。他、ネパール、ミャンマーなどアジア各国の方々が続きます。なお当院では英語・フランス語はじめ外国語の通訳がサポートします。



主な産科的疾患は？

* 2024年のデータ

* 一般的頻度は『産婦人科専門医のための必須知識』等から引用

疾患	当院		一般的頻度
	症例数	発生率	
妊娠高血圧症候群	45	4.1%	約5-10%
妊娠糖尿病	88	8.0%	約8-12%
常位胎盤早期剥離	11	1.0%	約1%
前置胎盤	4	0.3%	約0.5%
早産	33	0.3%	約5%

一定の割合で産科的異常を認めますが、一般的な発症頻度と同等です。
なお、当院は母体や新生児の集中治療室を有しておりません。
したがって、単胎では妊娠33週6日、双胎では妊娠34週6日以前の早産
リスクが高い場合や、母体や児に専門性の高い治療を必要とする場合には、
近隣の周産期センターと連携します。



母体搬送の理由と搬送先の施設

* 2024年のデータ

母体搬送の理由	件
妊娠34週未満の切迫早産	9
胎児発育不全	2
重症高血圧症候群	1
その他	3
合計	15

搬送先施設	件
東京女子医科大学病院	8
慶応義塾大学病院	4
順天堂医院	2
国立国際医療研究センター病院	1

2024年は15件の母体搬送がありました。搬送理由については、半数以上が妊娠34週未満の切迫早産でした。近隣の周産期センターに連携し、スムーズに搬送しています。

